

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	仙台市あおぞらホーム		
○保護者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の資質の向上に努めている	園児の状態像に合わせて医療的ケア児の緊急的な対応が行えるよう摂食嚥下や緊急対応訓練を実施してきた。	在籍している園児の状態に合わせて、今後必要な対応に備えていけるよう毎月の対応訓練を実施していく。
2	初めての集団を経験する子どもにとって、保育者との信頼関係の構築を行い、子どもが集団の中で培っていく経験や思いを大切に療育している。また、保護者が子どもの理解を進めていけるように、子どもの姿をミーティングや親子保育で伝えていく。	子どもが安心して楽しく通えるように、“この先生がすき、わかしてもらえた”と思えるような職員との関係性を構築していった。また、今年度も毎月の親子保育を実施し、親子で過ごす楽しさや悩みを職員と共有したり、勉強会では療育の意味を伝えて行った。	子どもとの関係性の構築は引継ぎ大切に行っていく。また、親子保育の充実や専門職からの勉強会の開催。
3	地域支援の充実。職員全体で地域支援を考えてきた。	今年度は地域支援員と同行して施設訪問や広場への参加を実施。地域での課題を職員全体で話し合い、親子通園部で地域向けの祭りや、地域の保育園等の先生向けの研修を実施してきた。	児童発達支援センターが地域に開けた施設になり、地域親子の居場所があり、安心して通えるような施設であることを目的に今後も具体的に取り組める事を実施していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制や専門職の配置の充実	医療的ケア児が多い中で、作業療法士や理学療法士が入れる日が少ない事。登園できる日にタイムリーに入れていない。常勤職員の不足。	看護師が休みの際には、隣接しているなかよし学園の看護師と協力しながら体制を整えてきた。その際には子どもの状態像がわかるように日々の健康観察を共通にして行い、普段と異なる状態がわかるようになってきた。今後も専門職が不在になる際の体制作りを行っていく。
2	職員の情報共有や保護者との共有が不足している	非常勤職員の出勤時間によっては情報共有の時間が取れず、職員間での共有が難しく、そのため保護者への連絡ミスがある。	毎朝の確認やホワイトボードを見やすく改善に努めていながらも、クラス間での情報共有の仕方などを模索していく。
3	建物や設備、遊具の老朽化	トイレ内のエアコンを設置するなど、設備を見直ししてきたが、老朽化による水場等の衛生面や、子どもの施設に見合う設備等の改善を行いたい。玄関の施錠なども職員が確認しながら行っている。	玄関の施錠等は、ヒューマンエラーが起こらないように自動で施錠ができるような対策を行いたい。